令和 5 年度 第２回松本市博物館協議会 議事録【公開用】

１　日時　令和６年３月２８日(木)　午前９時５７分～１１時９分
２　会場　松本市立博物館　会議室３
３　出席者
⑴　委 員
　笹本会長　小林副会長　川手委員　川舩委員　小林委員　玉水委員　林委員
百瀬委員　米山委員
⑵　博物館
　加藤館長　山村課長補佐　櫻井係長　石井主査　保坂職員　内山職員
⑶　傍聴者
　なし
４　会議の概要
⑴　開会
⑵　会長あいさつ
⑶　議事
ア　（協議・報告）考古博物館のあり方（文化財課への移管）について
　櫻井係長　趣旨、考古博物館の効率的効果的な運営のため、文化財課へ移管する方針について報告し、その課題について協議するものです。博物館の基本方針、考古博物館施設は博物館から文化財課へ移管し、埋蔵文化財普及事業施設、埋蔵文化財の公開、埋蔵文化財に関する講座の実施などを行う施設として文化財保護を担う文化財課が管理するということで、発掘調査から出土品の保存公開まで専門性をいかして一体的な事業が可能となります。経過と今後の流れ、平成２９年度の第２回博物館協議会において、博物館移管の議事をしており、この中では賛成の意見を集約いただいております。それから令和４年度までに博物館と文化財課において方針について合意をしています。今年度、考古博物館改修の実施計画それから予算要求のなかで、当局よりこれまでになかった指示がありました。考古資料の展示資料について、段階的に博物館本館へ移すことという指示です。なお本年度は考古博物館の外壁が剥がれ落ちるという事態がありまして、緊急安全対策として補修工事を実施しております。６年度以降の予定、６年度に関係する条例規則の改正、それから引続き建物の劣化度調査を予算で要求しているところです。７年度に文化財課への移管を目指しております。
　続いて移管の受入れ先となる文化財課の基本方針案をあげております。考古博物館が果たす役割の継承、開館施設の継続、それに必要な人員の確保、展示の継続、これは指定文化財の常設展示公開、史跡弘法山古墳のガイダンス機能を新たに追加する方針です。引き続き小中学校団体の遠足等受入れ、体験学習施設として運営上必要な人員、経費の確保。施設の老朽化対策、外壁以外の改修も必要となっておりますので、これをすすめていくという基本方針になっております。

課題、これが協議事項になります。博物館本館は現在テーマ展示をしており、通史展示をしております考古博物館の展示をそのまま本館に移すことは非常に困難であり、他の分野の資料と同じような活用方法とならざるを得ない。考古博物館の展示体験学習施設がこれまで通り維持できない場合、子供たちが考古資料と出会う機会が失われてしまう事態が考えられます。事業担当より補足で説明します。

山村補佐　文化財課への移管は掘った人が情報発信をした方がよいということで、ずっと課題だったのですが、この１年で当局から資料展示を本館へ段階的に移すという指示がでました。総合戦略ですとか財政とか教育長意見ということでして、令和６年度にどこまで覆せるかというところが、今日ご意見をいただいて、この１年踏ん張っていかないといけないかなと思っております。ここはテーマ展示でして、古代を通史的にみるということを新博物館で展示しようという難題を投げつけられて困っているところです。今あるテーマ展示のなかで、もしかしたらエリ穴遺跡とかそういうテーマができるかもしれないんですけども。考古博物館がなくなると子供たちが実際来て資料と出会う貴重な機会がなくなってしまうということで、この令和６年度どのようにしていくかというところは、今の展示を維持していくという方向で頑張りたいと思っております。

笹本会長　協議会では２９年度に移管案に賛成しているので反対はできない。問題になっているのは、市のほうから段階的に博物館本館に現在の考古の展示を移すようにという指示が来ている、その指示に対して、私たち博物館協議会としてはどういう対応をするか、これをしっかりしたい。課題としては、今お話しにありましたようにここはもうきちんと計画を立てて、何を展示するかというときには、考古は入っていないわけです。テーマごとにやっている中に新たに考古を持ってくるわけにいかない。そうすると珍しいものを置くくらいになってしまうがそれでいいのか、というのが一点です。それからもう一つは博物館の非常に重要な問題として子供たちに体験してもらったり多くの皆様に接触していただく、博物館の一番重要な点は、みんな何ていうか、寄り合い所になるような部分だと思っているんですけれど、その機能がなくなってしまうかもしれないです。ですから課題として以上の２点をあげながら皆様に御意見をいただきたい。いかがでしょうか。皆さんの方から今までの経験を踏まえて少しいただけないでしょうか。実はこれ全部連動してますので御意見なかで先生に持っていければと。学校の側から使うのか、つまりこれ教育問題なんですよね。地元の人たちはどうかとか考古学に対して松本市で今まで一番接触があった場所なんです。亡くなられた桐原先生をはじめとして、神澤先生いろんな人たちが考古学一生懸命やってきた。そういう流れの中で、まずは教育現場から一言言っていただけないでしょうか。

玉水委員　近年は行く機会なかったが、現状年１５件は小学校でしょうか。子どもたちにとっては体験も含めるというところが重要で、考古についてのトータルな学習ができるので、重要な場所だと思いますし、１５件ということは大変ニーズも高いと

いうふうに思うんですけれども、どこかで説明あったら申し訳ないんですが、本館に移すという理由はどういうことでしょうか。

山村補佐　市全体として再配置計画の中で将来人口が減少していく中で維持できないということで、各課１０％程度所管施設を減らしていくという計画があります。要は建物を減らすということで、各分館の展示を本館に持っていくということが言われています。

玉水委員　これだけ利用があるところが減らす対象になっていることがいかがなものかと思うが、かといって他の施設も重要だと思うので、難しいんですが学校の立場からいきますと非常に子供たちにとっては貴重な場であるということは確か。

笹本会長　ありがとうございます。今の問題すごく私は大きいと思います。今日おりませんけれども山根先生が松本は３％文化振興につかっているんだと、これは世界で一番多く使っている市だと。文化っていうとややもすると、私の気持ちとしてはセイジオザワだとかああいうところにお金をかけていてそれが目玉だっていう。一番大事なのは、未来を作っていくこどもたちに対して何ができるかでしかないんだろうと思う。その意味で言うと大地の中から発掘したものに対して過去の歴史をきちんと認識できる子供たちを作っていくことはすごく大事ではないか。その際にやっぱり考古の人たちと接触できる場が欲しいなと私は思ってます。その意味で言いますと今玉水委員の方からあったように、子供たちの機会に関してはきちんと考えていくべきだろう。特に今日ここにお集まりの皆さんそうだと思うんですけれども、博物館とか美術館に興味ある、美術を観て心を豊かにしていく、つまりすぐ効果はないけれども、心を豊かにしたり、ものの考え方を変えたりしてくれるような大きな意味で、それを短絡的、財政的にきつくなったからやめましょうでは、食事を抜いてでもという私たちの考え方があまりにも違いすぎると。ただこれは私どももいけないんです。つまりそういう訴え方を今までやってこなかった。つまり私たちが、市長いろいろ言うけれども、ほかのところにお金かけるんだったら、松本の子どもたちを元気にしたり、未来にして、そのためにお金かけた方がいいんです、それはよくないですよと。私どもも協議会としてはきちんと言えるような立場を作りたい。協議会は、協議した結果として、こう考えますということを持っていくだけの話ですので、決定権はないんだけども、正当なことをきちっと言っていかないと、次の時代が作れないだろうと思います。まずはですね、学校現場の方からしたら１０何校も言ってるっていうことを考えるとすごいことなんですよ。それを大事にしてほしい。しかも行ったときに、それを見せるものがなくなったら良くないので、通史的な部分は必要だと、博物館の中の一部にするよりかは違う分野の考古としてやった方がいいだろうというご意見ということにさせていただければと思います。

百瀬委員　体験学習大事だと思って、統計は忘れたが教文学習というのがあります。山辺学校の隣の科学センターで来る学校はほぼ全校ですよね。感想を聞いてみると、とにかくそういうところで勉強してよかったっていう、学校でなくて、大人は違

う人たちですよね、先生じゃない人たちにまた教わる。そういったことがすごくよかったっていうのは小中学生の意見ですし、教育平等の立場って言ったら、今貧困でご飯も食べられないという家庭があるわけなんですけど、その人たちにも平等に教育の機会が与えられるっていう大事な使命があると思うんです。まさに本当にこれなくしちゃっていいのかなっていう笹本先生の御意見なんですけど、自分もそう思います。

笹本会長　ありがとうございます。教育の平等の問題からも同様に与えてやるかっていう、実は私たち大人の使命だと思うんですね。良い時代を作っていくためにはより良い刺激を与えて今まで私たちが気が付かなかったことを気が付いてもらえるようにしていく、そのためには、考古博物館の役割は非常に重要であるというご意見。他の方いかがでしょうか。

川舩委員　私は実は高校時代郷土史という形のところで発掘何回かさせていただきました。中山でも発掘させていただいて、古墳群とか考えると歴史の流れの中であそこにあることがやっぱり大事なことだと思うんですね。私どもも博物館の立場としてまるごと博物館として各分館の大事なことっていうのはいつもここでお話しさせていただいてますし、またそれが一つの政策としてやってきたという過程もあると思うんですね。そういう形の中で、ああいう形のことがこちらに統合されていくっていうのは確かに効率部分からっていう部分あると思うんですけれども、果たしてその効率論を追及していいのかっていうのはね感じます。例えば今の展示もそうなんですけれども、やはりテーマ展示については丁寧で結構なんですけどやっぱりそれをいかにこう変えていくかっていう形のものはですね、きちっとできていかないと物が入っても展示ができない。結局展示してみたらいいんで逆に今そこのところにですね発掘調査の速報展が置いてますけども、あそこなんか見ててもやっぱり、こういうものが出てきたんだなってやっぱりわかるんですよね。だからそういうものをなくしてくっていうのはやはりちょっと問題があると思いますし、せっかく少し外部関係の研究者も含めて、ああいう形でいらっしゃるわけですよね。逆に言ったらもっとその拡張して使っていただけるような方法論をどう提案していけるような感じのがいいと思うんですけれども、いかがでしょうか？

笹本会長　ありがとうございます。すごく大事だと思うんですね。松本市はまるごと博物館構想ということですよね。まるごと博物館構想でどこでも学べる、実はどこでも学べる。一番いいのは考古。掘ってみたら今までと違うものがいっぱい出てきて、大地の中から歴史をきちんと聞く。プロの人たちと子供たちが接触できる機会を作ってやるべきだと。少なくとも人数を増やせないにしても、今の状況はできるだけ維持していただいた方がいいだろう。

それは川舩さんが松本まるごと博物館友の会会長さんですけれども、そういった意味からも必要だという意見です。ほかいかがでしょうか？

林委員　二つあるんですけど、一つは教育のことですけれども、火起こし体験とかっていうのを博物館で行っている他に、出張して各小学校でやってる。私も１回だけ

さていただきましたけれど、それは非常に見ていて、子供たちがその反応するのに、こうやって火を起こしてたんだっていうふうに体験できる、それがやっぱり考古博物館として、そういういろんな資料材料を持っていて、そこで拠点となっているってことが大事。人がそんなにいないっていうだけじゃなくて、そこを使って遠足で来て体験するだけじゃなくて、いろいろな形で小学校だけじゃなくて、公民館とかそういうところでもやれると思うんですがやっぱり拠点が必要だっていうことで、これは展示物を本館に移すということだけでは、今度も本館の人がそれぞれこれからそのシステムを全部やれるのかっていうととんでもないですね。今でも我々市民学芸員でやらないととても対応できないとかっていう状況なんですね。さらに出張したりということはできないんです。まるごとっていうかこちらから浸透していく事業の拠点としての役割を果たしているのでそれを維持して、もしくは発展させる、それからもう一つ考古っていうと何か先史時代っていう先入観があると思うんでね。文字が書かれなかった時代にあった土器とかが発掘されてっていうところがすごく大事なところですけど、その歴史が書かれるようになっても書いてあることが何なのかっていうのも、出てくると近世近代のものもその遺物があることで分かるっていう、歴史っていうのは文献・考古・民俗資料を収集保存していくことで、全部でなりたってるっていう。三つの分野の重要なところを担ってるっていうことが、つまり、むしろ通史博物館として発展させるっていうことを考え、その分館の方は、考古博物館は考古資料を中心として通史的に準備してるっていうことをちゃんと資料としてね、その本館も松本城のお堀からでてきた杭も展示してますから、そういうふうにテーマ展示に使えるものはいいとして、思うんですけど、何が何でも展示は全部本館っていうような発想はまる博構想と逆行してると思うんですね。それぞれの良さを発揮できるうちに、整理していくことができる。

笹本会長　ありがとうございます。林委員のご意見も当局から求められる形ではなく、地域の拠点になるべきだと、逆に言うと、私達はもっと地域の拠点になることも最後は検討して、その結果として今の体制よりもっと良くなっていくべきじゃないかと先ほどお話があった非常に重要ですね。考古は現在まで全部扱ってます。それから文献では扱えないこともあるんですよ。例えばですけど大地の土を見れば、花粉分析をすれば、気候がいかに変動していくというか今地球温暖化の中でこれからどう見ていくかっていうことを含めて言うと、このそういう多面的な方向性を含めて、子供たちに知らせてやりたいと思いますので今の意見私としては是非していきたいと思います。他の方は。

川手委員　質問あるんですけれども、少子化による１０％施設削減というのはよくわかるんですが、これはなぜ考古博物館が槍玉に上がっているのか。他にも施設はありますよね。なぜ考古なのかっていうふうにちょっと不思議なとこあるんですが、実を言って私も家が近いということもありましてね、お手伝いに何度か行ってるんですが、子供たち非常に喜びます。

　それはねやっぱ継続してもらいたいなと思うんですが、来館者は非常に少ない、それはあるんですよ。これは事実として皆さん受け止めた方がいいと思うんですが、やっぱり場所がね
　ちょっと遠いんですよ。正直言って例えば松本城で出土したものを預かって、飾っていただいたりしても、中山でやってもだれも来ません。そこははっきり言ったらいいと思います。
　多分だからもうちょっとね、中山の博物館の性格っていうんですかね。これを明確にして、いろんな人をとらえるようにしておいた方がいいのかなというふうに思うんですが、多分来館者が少ないからやり玉に上がってるんじゃなかろうかと思います。やりながらも何とかしなきゃいけないなという感じがしましたね
　笹本会長　ありがとうございます。それもまた言っていかなきゃいけない。つい先日安曇野市の会議があり、子供たちと一緒に地域関係の資料を見たいということをやっていったら、人がいっぱい集まりすぎて逆に落とされたということがあった。それはやっぱり努力の仕方だと思うんですよね。つまり、一朝一夕に全てができるわけじゃないんで、もう一つ僕、先ほどまでの川手さんと林さんの意見を聞いていて、先ほどと逆で大変申し訳ないんですけれども、年配の方にとってそこに接触することがまたプラスになってるはずなんですよ。そうですねだから、子供たちが来るという側面だけではなく、接触できることの意義もきちんと考えていかなければ。ある程度年を取った人たちにとっても生きがいの場になってるんだとか、その足りない部分として、もっともっときちんと人を集めるための努力はお互いにしていかなきゃいけない。それはもうしっかり私達も認識しなきゃいけない。人が来てないっていうことに関しては、やっぱり考えていかなきゃ。ただ、先ほどちょっと皆さんに言ったんですけれども、広報をしようと言ってもですね、広報の専門家を用意してないんですけど、この手の話普通で言うと、もう専門家の人たちがこういう広報の仕方をすればいいんだっていうのがないとしょうがないだろう。例えば写真の撮り方ひとつとっても効果的にやるんだったらどうしたらいいか、そういう意味でいうと少ない人数である中でやれって言うだけではどうしようもないところがあるので、逆に私はですね、今までの意見も踏まえるなら、考古博物館でこの部分は手を抜いてやってもいいですよと。その代わりここをやってくださいっていうところをきちんと決めておかないと、仕事が増えるだけだともう止まらない。その辺も含めて先ほどの通り私どもとしてはできたら今の状況だと必要性はあるし、それから基本的な通史展示も必要になっていると思います。教育的にも重要だと思ってますので、その辺をちょっと確認していければ。
　米山委員　私ここが元々の考古学の調査研究とか、全国的にみて優れているというふうに聞いたことがあるような気がするんです。実際この分館が全国的にどのような評価を受けてるかってことも踏まえたうえで検討いただきたい。高評価をされているような専門館が失われてしまう。

笹本会長　ありがとうございます。先ほどちょっと触れましたけれども桐原健先生のように高校の先生をしながら全国区の先生がいたりしたわけですね。直接関係ないかもしれないけど私も関係してるのでいうと、平出博物館は戦後の中で、この教科書がある中で本当の歴史を知りたいということでもって発掘が始まり、市民たちがいっぱい駆けつけて、発掘したものを何とか残そうじゃないかということで、市民の力を持って博物館ができるわけですよ。中山のところに博物館ができているっていうのは、古墳群がある、牧監庁があるとかいろんな理由があるわけですね。そういうことを学ぶための拠点、そしてかつてはそれだけ進めた松本の人たちは、全部横の人の繋がりが大きいので、例えば桐原先生に頼むと日本全国どこでも繋がる。今はだんだんだんだんそこが弱くなってると思うんですよ。弱くなってると逆に言うと、子供たちの次の時代、もうそれで僕じゃなくて新しい考古館を作るためとして、子供たちに触らせておくと、私達も思わぬような見方をしてくれますので、そういう意味からしても、過去の松本という地域の考古的な成果からしてもできたら、これは残しむしろ今後に育っていくべきだと、サイトウキネンの意味は、子供たちのレベルが上がったってことだと思うんです。それがサイトウキネンに接することができたから、なんですよね。博物館に接することができないような状況になるんだったら意味がないんで、考古の人たちが専門にとにかく発掘業務やってればいいんじゃなくて、自分たちの役割をきちんと市民に知らせなきゃ駄目だと私は思います。そういう意味で米山委員の言われた通り。

川舩委員　今会長おっしゃってたお話聞いたりすると思ったんですけど、先ほど申し上げましたように私は高校時代発掘がいろいろありましてそのときにですね、本当に土器だとか、加曾利Eとか今になってもよく覚えてるなということをやっぱり覚えてます。ですから先ほどからお話が出てるように子供たちに教えていくっていうのも大事だと思うんですけどそれと同時にですね、やっぱり学芸員を育ててほしい。これ本当に私何度も申し上げてるんですけれども、あまりにも人がコロコロ動かしすぎるんです。いろいろあるとは思いますけれども、本人の希望があってね、そういうことを本当に取り組みたいという人がいるんであれば、やはりスタートしていただいてやっぱり先生がおっしゃるように指導者作っていただかないと、これ中山だけでなくみんなそうなんですけれどもね。ちなみに私、ここ博物館に２５年ほど関わってつくづく思うんですけどね、人が変わるたびにね、また同じことの繰り返しってのは非常に多いんですね。この担当者が変わるたんびに、物事が縮小していくというふうに変わってくる。確かに世の中の流れも変わってますけど、やはり１本の線っていうのは動かして欲しくないなっていうのはつくづく思ってますので、ちょっと最後に申し上げたいと思います。

笹本会長　ありがとうございます。これはすごく大事なことなんですよ。だって、この博物館の展示の中心になってた人たちがいなくなっちゃってるわけだから。普通で言ったら一番必要な時期にそれを言い方悪いけど、博物館のいいところはここです

と、周りからも評価を受けてここが弱いってことを全部組み込んで、理解して次にバトンタッチするのはわかるけれども、それも出してバトンタッチしてしまう。仕事ってのは継続性がすごい重要なのに、松本の場合はコロコロ変える。これはもう誰が見てもそうなんで、それが私ども博物館協議会としては仕事の永続性・継続性について十分気をつけてほしいと、これはぜひお願いしたいと思います。同じようにですね、これ、いつも言うんですけれどもなかなか松本の特徴もう一つあるんですよ。松本は文化芸術バラバラ。というのは博物館にとってもここの博物館協議会と松本城会議のとき一緒にならないですよね。こんなことありえるだろうか。つまり博物館行政を、松本市の博物館行政をどうやっていくかのときは個々の博物館と松本城、美術館全部一堂に会してなきゃいけないわけですよ。例えば安曇野の場合は、もう全員が集まります。私よく言うんですけども私が会長になってから向こうへ言ってるとわかるけれども、今回の場合で言うと、子供たちのために一体何を言ってるのかそれを言い続けると必ず会議の書類の中に１年間子供たちのためにこうした、来年こうする、それは全部横断的にやってるわけですよ。ところが今もう一つここに来てわからないのは、なぜ美術館博物館一緒なはずなんだ。なんで美術館も出てこないのか。博物館繋がりがないのか。全部繋がるはず。少なくとも所属は別にあったとしても横の横断がない限り今の状況が続くだろうと思うんですね。ですから、私は博物館協議会としては、できるだけ他分野のところも一緒に動ける体制を作ってほしいと、そうしないと、松本全体の博物館像ができない。まるごと博物館だって言ってんだからバラバラになっちゃうのはちょっといかがなものかと思います。この点も、少し留意しておきたいと思います。

林委員　さっきアクセスの問題が出てだと思うんですね。入場者が少ないという。松本で中山地区も非常に交通不便で困ってらっしゃる方が多いんですね。むしろそこを地域のアクセス向上、それから中山霊園がありますから、結構利用者があると思うんですね。あとアルプス市場っていう素晴らしい施設もあり、アクセスがあると入場者も増えるんじゃないかと思う。これをぜひぐるっと松本も一緒に考えていただきたい。

川手委員　ちょっとね変わってですけど、例えば尖石ね、ありますよね、恐ろしい田舎なところに。でもすごいですよね人はね。だから中山はやっぱちょっと離れてるからいらないってことじゃないと思うんですよ。広報の問題では多分PRですね。尖石はいつ行ってもすごい人がいてね、大したもんですけどね。ああいうふうに自分でやろうとはできないことはないなというふうに思うんですけどね。

笹本会長　多分一方で言うと国宝２点もっているところと、まずは一緒にできないと思う。ただ、今の話は、交通や何かのことも少しは考えた上で人を増やす努力は博物館の中ではなくて、市側としてもしてほしいというのを意見として入れておきたいと思います。

ちょっと思い出したんですが、評価が高い理由で、火を起こして料理しましょうと

いうときに、簡単に起こせないですよね。お父さんが一生懸命こうやると子供がすごいって言って、そうすると親はすごく喜んじゃって、さらにやると、つまり親子の会話が一家を前提にしてやるならばそういったことも十分考えていかなきゃいけない。だから学校でやるんじゃなくって、場合によるとその中でもってそういう体験をしながら親を教育し子供もまた親がいかに大事であるかということが教育できるような形にしていかなきゃいけない。そうすると、だいぶ雰囲気が変わってくるだろうと思う。だから繰り返して言いますけれども、今なぜ人が入らないかっていうことをきちんと我々も認識する、でも何が足りていないかをきちんと言っていかなかったらば、人が来ないからと言ったら、先ほどの通り私なんか博物館とか音楽とか好きなんで、心が豊かになる、そういう経験のない人たちに一方的に言われてもちょっと困るし、こんなに面白いんですよって言い続けるのは私達の使命だと思います。

小林副会長　僕は観光の方から来てるもんですから、一時３、４年前ですかね、美術館が修理中で、博物館は移転中で開智学校が駄目で、僕ら観光業界でお客さん来たらどうすればいいのかという時期があったんですよ。そのときに助けてもらったのが考古博物館とか、歴史の里、四賀化石館でした。最近やっぱりね、歴史っていうかですね、旅のやり方も変わりまして、大体１ヶ所で結構何泊かされてそこの文化を味わうようなおしゃれな方がお客さんとしても増えてきている。そんなようなこともありますし、私もそのときに体験型っていうのが最近の流行りでして、ラフティングとかですね。崖から飛び降りちゃったりとかですね、人の楽しみ方がだいぶそっちへ今変わりつつある中で、教育委員やったときにこのクラフトフェアの連中があがたの森で勾玉のテントをやった。それがやっぱ人が並ぶんですよね。やっぱ親子、さっき先生のお話しのとおり夢中になるので、そういう子供たち、親たちもこれは間違いなくてですね、それがなぜ動かないかっていうところがやっぱり先ほどの発信力かなと思うし、考古博物館私も行ったんですけれども、バスを止めようと思っても、バスを止めるような場所がなかなかない。やっぱり動線がしっかり示されてないっていうようなこともありましたし、人がこう来てもいいような形をやっぱり形として整えるとやっぱりそこで面白く遊ばしてくれる指導者というかですね、先ほどもありましたように目がキラキラした人が案内してくれるとですね、面白さもやっぱり１０倍になりますんで、そんな人がそこでやっぱりじっくり育てていかなきゃいけないし、先日の市長選でもですね、市長は子供のための町を作りたいとはっきりおっしゃってましたので、その辺をどこかと思うんですけれども、今度図書館の機能を何かパルコのところに入れるというような話も聞きましたんで。その体験できる、雨の日で子供を遊ばせるところがないんですよ。戻って、やっぱり市街地で、例えば図書館の横に博物館的な場所があって体験ができて、火が起こせたり勾玉ができたり、そういうような館内で面白く人が遊べるというような、その辺もこの理屈っぽい街にあってるんじゃないんですかね。全部包括的に物を言えないんですが、松本の人たちの楽しみ方と違って、外から来てくれた人の楽しみ方ってのやっぱり専門性もちょっとやっぱり必要

で、縄文のヴィーナスとかですね、その辺聞くと、もうみんな人行っちゃうわけですよね。その辺を観光コンベンション協会っていうのが外にありまして、そこにいろいろなデータがあるんですけれども、考古は残念ながら入ってないです。やっぱその辺もこれからですね変えていかなきゃいけないと思うんで、体験型っていうのは特に大事だからその辺をもうちょっとこうアピールすべきだなというふうに思います。

　笹本会長　ありがとうございます。大変重要な部分が皆さん全員としてあってですね、まず一つ今まで確認ですけれども、本協議会としては統合することには反対する。通史的な博物館はどうしても必要である。特に大事なのは子供たちの体験的な場所が必要になってきて、むしろそれを大きくすべきだろう。ただし、問題としては現状で人が来てないっていうことをどのように理解していったらいいか、一つは働く人たちに今後とも頑張ってもらう、もう一点は、広報的な部分で弱いです。この問題は職員だけじゃなくて市全体でも考えていただきたい。先ほどの小林委員すごく私重要だと思いました。駐車場ないんですよね。駐車場がないっていうのを考えてみると、私もよく言うんですが、中山霊園が近いので私のような年配の人はいっぱいいるので共通の居場所なんですよ。にもかかわらず、駐車場が狭くて、しかも車がいっぱいで仕方ないから公民館の方でとかいうような状況ではいけないので、市側はもうきちんと駐車場等人を集めるために努力をしてほしい。ですから、あくまでも私ども博物館協議会としてはこれはすごく大事な部分で、それから観光的な部分で言ったならば松本城のような部分だけではなくて今滞在型の観光が非常に盛んであり地域を見てもらう。例えば埴原城は国の史跡にしなきゃいけないくらい。もうそこのところを１日歩けば、それだけでお城は理解できるとかいろんな要素もありながら、拠点になるところを捨てているのは、どっちかって逆に言うと問題なんだけど松本の場合、これも怒られるかもしれないけど、この浮世絵展も本来浮世絵博物館がすぐそこにあるんだから、あっちを見てもらうという入口にすべきなのがここへ持ってきたらそれで足りない部分が逆にでてきてしまう。だからもっと面としての観光をお考えいただきながら、地域の人にとっても良いようにしていける。それからもう一つのことは極端な言い方かもしれませんけど、松本だけつまり中央のまちが栄えればいいんじゃなくって、合併した地域も全体として文化が上がっていって初めてですよね。ところが何事もまちの方にばっかり持ってきている。シンボル的な意味を持ってるとしたら逆に中山のようなところが今後とも支えていくことが、重要になってくるので、文化施設としては何とか私達は市側の意識とは違いますけれども、本館に移すことに関して博物館協議会としては、反対する、それは先ほどの理由、それから今後のことを考えると、体験学習の重要性を改めて再認識し、市長の子供たちのためにっていうことを市長が言った以上は、博物館協議会もそれに沿ってやっているという。私達は、市長の方がうまくいくためにそういう結果を出した、ということにしたいと思いますがいかがでしょうか？よろしいでしょうか。綺麗にまとめていただいてですね、意見としては今のように私達としては必要であって、それから今年繰り返していますけれども、

足りなかったところ、みんな認識していると、さらに、市に対しては、できるだけ職員コロコロ変えるんじゃなくて、ある程度計画性を持って長くやってほしい。それから、文化的な部分ですから博物館協議会や何かには横の繋がりが非常に大事になってくるので、これからその方向性についても考えていただきたいというふうに思っていきたいと思います。

それでは次の議題に入りたいと思います。

⑵　（報告事項）松本市立博物館オープン後の入館者数について

加藤館長　まず報告の前にですね、今協議事項につきまして委員の皆さんからですね、現状認識ですとか位置づけですとか課題、また考古館のみだけではなくてですね、今後博物館の事業全般にわたることにつきまして忌憚のないご参考になるご意見をいただきましたことをお礼申しあげます。誠にありがとうございます。こちらの出していただいた意見をですね、しっかり整理いたしまして今後、令和６年度のですね、庁内等の調整等に臨んでいきたいと思いますので、まずもってお礼を申しあげます。ありがとうございました。

それでは報告事項改めてなんですけれども、博物館、この新館ですね、松本市立博物館のオープンの入館者数についてということで簡単ではございますけれども、資料をご用意させていただきました。これ３月４日までの月別のですね、常設展示特別展示の有料無料等をまとめた数字でございます。オープンした１０月はですね、その常設展示の入館者数というのは、常設有料無料含めまして１万１４００人ほどで、特別展松本博覧会から行いましたけれどもそこが１０月は７９１７人というようなスタートとなっております。その後、やはり１１月は少し開館時の勢いがなくなった感じもありまして、やはり松本って１２月１月は少し閑散期っていうところで私も正直このままどんどん減ってしまったらどうするんだろうと思ってたんですけれども、常設展特別展ともにですね、特別展１月ほぼやってなかったっていうところもありますので、あまり入ってないんですけれども、２月になりましてからは広瀬さんの方も少し上向きになってきておりましてこのペースの３月まで続いております。この数字の評価をどう捉えるかっていうことなんですけれども、類似のですね、松本市美術館とほぼ同月で見てみれば同等のような形ですし、県内のですね、県立も含めていろんな施設の状況ちょっと状況とかをお聞きいたしますと同等かそれ以上っていうような形の入館者数になっておりまして、これ２月の議会からもどうなんだって質問あったんですけれども、評価としてはまずまずの滑り出しっていうような形で報告はさせていただいております。報告の通りまずまずの滑り出しではないかと思っておりますけれども、近隣の松本城につきますと、冬季でもですね、１ヶ月３万人とか、来ておりますので、そういったことを踏まえると、まだまだ市民の皆さんの掘り起こしもできるんじゃないかと思いますし、観光にも来た皆さんにもまだ多く立ち寄ってもらえるような工夫とか余地とかはまだまだずいぶんあるんじゃないかなというところが現状の認識でございます。あと表の下から２番目の遊び場

でございますけれどもこれ県内初の子供体験ひろばなんですけれども、遊び場はですね、大体２４００人台とか２５００人台で推移しておりまして、多分これ、先ほどもお話したときに雨の日遊ぶところがないっていうような中でもですね、私も様子見てるんですけれどもやはり雨の日とかは、お客様来ていただいたりとかしておりまして、少しずつ固定客でもないんですけれども認知度は広がってきてると思います。特に希望者が多い場合は１時間ごとカードを渡して入れ替えっていうような形の中で少し週末まっていただくっていうような場合も出てきておりますので、そういう場合については認知度が広がってはきているんではないかなと思っております。特別展示の状況なんですけれども開館から１２月１０日までの５５日間松本博覧会を行いまして、１月１３日から３月３日までの途中、展示の入れ替えがありますので期間につきましては４０日間なんですけれども、浮世絵展を開催いたしました。これ数字細かく載ってなくちゃいけないんですけれども、松本博覧会約１万９０００人で、浮世絵展は１万１０００人というような形で、特別な二つのとこですね約３万人弱の入場がございました。あとこれも口頭での報告で申し訳ないんですけれども開館してからオープニングイベントっていうのを、いろんな週末を中心に地域の木遣りの皆さんとかですね、獅子舞の皆さんですとか、あと高校生もいろんなダンスですとか、スズキメソッドなんかも、いろんな世代の方たちにオープニングイベントをやっていただきまして、合計すると２９団体の皆さんが関わられております。これはですね来館に来ていただいた皆さんにプラスアルファの楽しみっていうのも、楽しみを見ていただくっていうのを提供すると同時にですね、やっぱり関わってそこに参加した市民の皆さんとかそのご家族の皆さんも、やはり博物館に訪れる機会になっておりまして、開館から一定程度ですね、この博物館が開館したということを多くの市民の皆様にわかっていただけるような効果もあったんではないかと分析をしております。最後なんですけれども、今刀剣展を３月１６日からですね、当初計画ではなかったんですけれども、この収蔵品刀剣展っていうのをですね、博物館友の会刀剣部会という皆さんがおられまして、そちらとご一緒にですね、協力を得ながらやっております。これ３月１６日から行ってるんですけれども、この日曜日までで３７００人というようなかなり大きなお客様が来ていただいております。最後になりますけれども、この３月１７日に初めて博物館まつりを、これもこの博物館友の会の皆さんと市民学芸員の皆さんとでですね、１年間の展示発表の場というような形の中で、展示を行っていただいたり、ワークショップ等の体験を行っていただいて、やったところなんですけれども、この日のですね入館者数が２０５１人ぐらいおりまして、前後が５００人とか８００人っていうところですので、かなりこの間にお越しいただいた皆さん、あの１０００人以上の皆さんにお越しいただいたというような形の中でいろんなテーマ別展示のものについては賛否とかもありますけれども、テーマ別展示等を補完する形で、特別展示室を使ったりとかですね、また今１階で発掘された松本の展示も文化財課で展示しておりますけれども、こういったようないろんな組み合わせを行う中でですね、市民の皆さんに飽きることなくまた観光客の皆さんにもですね、まだまだ入っていただける余地は

あると思いますので、アピールをしていきたいと思っております。報告は以上です。
　笹本会長　どうもありがとうございました。順調に来ているということも説明ありまして、ご質問ご意見等ございましたら。
　米山委員　例えば主催する講座だとか、市民団体が主催するようなイベントとかそういうような利用状況などは。
　加藤館長　今ちょっと数字を持ち合わせていないんですけれども貸室の利用状況とかは、会議室や講堂を貸す機能もありますけれども、結構ですね民間の会社さんが夜に会議を行ったりとかですね、あと企業の研修とか、企業の会議ですね企業さんの例えば企業の総会ですとか、そういったような形で有料でお使いただいたりとか、その研修にプラスアルファ博物館なので、有料でですけど見ていただいたりとかっていうような動きも起きております。あと、指定管理者が独自の事業というようなことでですね、夜子供さんのダンス教室なんかを講堂でやったりとかですね、あと時々博物館の前とかも使って出店というかキッチンカーを置いたりとかっていう、冬場の本当にお客さんあまりなくてちょっと賑わい作りたいっていうようなときには、キッチンカー置いたりとかっていうような指定管理者のイベントっていうのも頻繁に行われておりますし、あとワークショップなんかもですね、博物館の学芸員とか私達が中心になって行うようなワークショップ、あと民間さんのワークショップっていうのはあんまりないんですけども、ワークショップについては、博物館直営とか友の会とか市民またですね、交流学習で美術展なんかも２日間やっていただいたりとか、あと今マツモト建築芸術祭をこの前までやってたんですけれども、そこの一つの会場ということで、ショートショートっていう短い映画を博物館で流したりとかして、それがマツモト建築芸術祭に行かれた方が会場の一つということで、導入展示の階段に座って見ていただくっていうような経緯がありまして、そういった面ではいろいろな使われ方ができてきてるんじゃないかなと思います。あと新聞でもでたんですけれども夜、子供さんたちが学習したりという利用がありますけれども、そんなために作ったんですねっていうきつい声を言われる方もいますけれども、これはもう私の中では空いている部分別に勉強部屋として開放するわけではないんですけれども、空いている中では使っていただいてもいいんじゃないかなっていうような思いもあります。ただ、博物館としてワークショップで事業やったり、お貸しするようなときには節度を持って閉鎖したり案内をしながら、そういう本来的な時こういう学習に使っていくべきだと思っていますのでそこら辺もいろんなご意見をいただいております。
　米山委員　オープンスペースを午後から何かのイベントで使うというふうに案内が早い時間から出て封鎖されていたので、改善の余地はあるかなと思う。
　加藤館長　そうですね。そこら辺を指定管理者とも話をしながら、予約した方には支障ないようにですけれども、空いてるときには少しっていうような形の中はまた指定管理者と運営の中で調整しながら行っていきたいと思います。
　笹本会長　どうもありがとうございました。展示は一部であって、どういうふうにソ

フト面を充実していくかが大事だろうと思ってそういう意味でだいぶ頑張っていただいてるみたいですけれども、さらによろしくお願いいたします。他にご質問ご意見等ございましたら。

林委員　前回とか前々回、有料無償化っていう話が出てましたけど、結果どうなるのか。

加藤館長　はい、その他のところでご報告を差し上げようかと思っておりました。今ちょうどご質問いただきましたので、状況を報告させていただきます。分館の無料化と休館日の変更につきましては去年のですね、この博物館協議会の中で答申をいただいておりまして、市の中で条例改正を含めて整備に当たってくるというような方針でいたんですけれども、去年当初１０月の開館に間に合わせるようにっていうような形の中で市の事務調整を行ったんですけれども、一つは財政的な問題点として、入館料とか、歳入とかはもう組んでしまってる中で、あんまり動かすのは望ましくないっていうようなことですね。あと周知期間、例えばいつ条例改正をして、いつから無料化するかっていうのを周知期間が当初のこの去年の１０月のこの博物館開館だとあまりにも短いんじゃないかっていうような議論もありまして、庁内調整の中でですね、やはり一旦ちょっと１０月の新館を開館させたら、その次の段階で取り組めばっていうような形になりまして、ずっと議論は令和５年度でやってたんですけれども、今の状況なんですけれども、これで一旦市長選がありまして、市長今の体制継続っていうような形になっておりますので、そういったような方向性は変わらないと認識しております。その中でですね、令和６年度中に条例改正含めて取り組みまして、実施時期についても今考えられるとすると１０月とかですね。周知期間の問題を取れば、来年の４月からっていう方が妥当だというような調整議論になれば、令和７年の４月から値上げする分館、社会教育施設としての社会的役割を含めて無料にしてもっと利用促進を図る施設っていうような形の中でメリハリをつけたような分館のあり方っていうのを取り組めればと思っておりますので、答申いただいた方向性につきましては、変わらずですね、答申いただいた内容をもって、今後の条例改正等、庁内議論を進めていきたいということで思っておりますので、ご理解のほどお願いいたします。

笹本会長　どうもありがとうございました。まず最初に、本館の入館者数に関しては皆さん了承いただき、それでその他の方とも関わって入館料の問題が出ておりますけれども、その他で何か皆さんの方からありましたらお願いいたします。

川舩委員　ここんところちょっと詰めさせていただいてるんですけども、やっぱり外人さんが非常に増えてるんですね。先日も１５人の団体さんの外人さんがちょっと入ってきましてですね、ちょっとあたふたした。前からですね常設展示室についてはそのスマホで見れるというような形のものがですね、かなり言われとったんですけれども、それ以外の展示とか、いろんなものがこれからされると思うんですけど、そのときにやはり英語表記の問題だとか場合によっては本当に今翻訳機能を使ったスマホですぐ見れるようなこともありますのでそこら辺の部分をもう少し外部に対して提示ができればなと

いうふうに今回つくづく感じました。ちょっとあまり大勢入ってこられてという事態でどうしていいかちょっと迷ったことがありましたもんですから、ちょっとそこら辺も今後の課題にしていただければお願いします。

笹本会長　ありがとうございます。私の務めているところは外国人ほとんど来ないけど、この松本城ってやっぱり今非常に世界的に有名になってきて多くの人が集まってきている、それに対応する方策は観光のためにどうしても必要になってくるだろう。私が関わってるので言うと南木曽町の重文林家住宅の中に、英語ができる人が必ずこうやってるんですけど、それもすごく効果的なんですよね。ですから、きちんと英語ができる人をどのように配置していくか、先ほどちょっと小林さんのところも、これから海外の人を観光としても迎えていかなければいけないような状況自体が、ですから語学問題は今後、博物館協議会でも大きな課題になってくるだろうと思いますので、また検討を進めていただけたら幸いです。

他にございますでしょうか。

米山委員　個人的に歴史の里のお手伝いちょっとやってると思うんですが、あそこは建物博物館って扱いなんですけれども、建築の専門家がいない。多分他の館とかでも何かその人員配置とか、それを博物館としてどういうふうに考えていくか、教えていただきたい。

笹本会長　博物館のこれは市側からすると係長とか課長に上げていくためによそへ回さなきゃいけないみたいなこともあったりするかと思うんですけれども、長野県全体の中で専門家がいないんですよ。何を見せたらいいのかっていうときに、建築博物館なんていうんだったらそれが説明できるような体制をやっぱり作ってほしい、これは協議会としても是非、きちんと対応していただきたいという要望を持っていくということでよろしいでしょうか。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

私の方としてはですね、直接的ではないんですが一言だけ申しあげますと、１１月にこの松本市が全国博物館大会、ですからこれは小林さんの方に関して言うならば、端境期の１１月ですからお客さん持ってこようっていうのは大前提なのですけれども、普通よそでは２年前には実行委員会が作られてます。でもここではまだ実行委員会が作られていません。日本の大会をするのに一体どうするのかっていう問題があって私どもは博物館協議会ですから博物館が主体になってやるときに、ある程度お手伝いをしなきゃいけないだろうということと同時に、そういったことに関しても、関心を持っていなきゃいけないだろうと思います。ですからもしというか、１１月になりまして当然、林さん川手さんは今までの状況から見ると学芸員の会としてご協力いただくことになると思うんですけど、皆さんも場合によったらご協力いただければ、協議会の会長としてお願いする次第です。できましたらよろしくお願いしますそれではすいません、予定通り行きましたので事務局にお返しいたします。

ありがとうございました。それでは最後に館長の方から一言申しあげます。

本日年度末のお忙しいときに急遽というかですねお越しご案内申しあげたところ、多

くの委員の皆様にご出席いただきまして、意味ある唯菜ですね博物館協議会が開催できたと思います。本当に改めてお礼を申しあげます。

⑷　閉会